

●令和3（2021）年度グローバルプロジェクト（研究分野）推進公募採択一覧

No	プロジェクト名	プロジェクト代表者	プロジェクト概要
1	旭川家具産業集積における中小企業の進化プロセスと価値実現	林 松国	2000年代以降、国内5大家具産業集積の一つである旭川家具産業集積は量的縮小の影響に対応する形で産業集積の構造が大きく変わり、現在、自己完結型の生産を行う中小企業を中心に、多様なニーズに柔軟に対応しながら高いデザイン性と耐久性の脚付家具を生産する産業集積に変貌している。 本プロジェクトでは、旭川家具産業集積における中小企業の価値実現について、異なる階層に位置する企業や規模の違いによって、価値実現のあり方が異なるという仮説に基づき、主に成長性の高い既存企業と2000年代以降に創業した企業の経営実態を詳細に調査することで明らかにしていく。それによって、付加価値の高い産業を創出することで地方経済の自立化モデルを探求している。政府・観光庁がインバウンドを推進してきたこともあり、コロナ禍以前には、海外から多くの観光客が全国各地に押し寄せてきていた（北川，2017）。小樽へは、中国，韓国，それに台湾からの観光客が多数を占めた（小樽市，2019）。 台湾からの観光客はリピーターが多いため、北海道の観光業にとって重要な意味をもつ。コロナ禍が原因で、日本の観光地は海外からの来訪者の激減に悩まされている。訪問動機の高い台湾からの観光客は、観光業再興のきっかけを作ってくれれば、日本の、とりわけ北海道の観光従事者は考えている。 海外からの観光客、とくに20歳代の若年層から50歳までの生産年齢人口世代が、日本の観光地の情報を得ようとするとき、もっぱらSNSを使用し、SNSからの情報に頼る（榎部，2020）。とくに、コロナ禍で現地に行くことができない今、SNSを通じた適切な観光情報の提供は、他の観光地との差別化を図るうえできわめて重要である。 本プロジェクトの目的は、観光再開のキーとなる台湾人訪日観光客の小樽への再訪と、台湾人のSNSの使用傾向との関係を調べ、 土壌には菌根菌と呼ばれる菌類が数多く存在し、これらの菌類の一部は根圏で植物と共生関係を築いている。しかし、植物との共生関係を把握できた菌類は少数に限られ、植物と菌類の共生の実態についてよく分かってない。本研究の目的は、北海道の植物を対象にして植物と菌類との共生の実態を把握し、その共生が植物の生存や繁殖、および植物を利用する（人間を含む）動物に及ぼす影響を解明することである。特に、植物の成長段階に応じて共生する菌類がどのように推移するかをDNA解析により明らかにし、菌類組成の推移が果たす生態学的役割について考察する。
2	コロナ後に小樽を選んで再訪してもらうために必要なこと - SNSの使用傾向が台湾人観光客の小樽のイメージに与える影響	佐山 公一	
3	北海道の植物と土壌菌類の共生関係の実態把握とその生態学的役割の解明	片山 昇	
4	榎本武揚の化学者の特性に関する検証 - 歴史学と化学による文理融合研究 -	醍醐龍馬	本研究では、小樽ゆかりの榎本武揚の化学者の特性を学際的に明らかにする。幕末のオランダ留学で化学を学んだ榎本は、戊辰戦争後に福原有信に石鹼の作り方を伝授し資生堂の創業を手助けするとともに、開拓使として道内の資源開発にその知見を活かした。このような榎本の化学者の特性を、彼が獄中で記した「石鹼製造法」を読み解きながら、そこに書かれた石鹼を実際に復刻して検証する。これにより当時の学問的水準の一端と、旧幕臣を藩閥政府内で浮上せしめた専門知の実態が浮き彫りになる。
5	日本遺産を活用した小樽のwithコロナ対応型広域観光実証事業	高野 宏康	小樽市は2つのシリアル型日本遺産に認定され、現在、地域型日本遺産を申請中であり、日本遺産を活かした観光まちづくりを進めているが、コロナ禍の影響で実践的な誘客促進が課題となっている。本事業では、日本遺産「北前船」の構成文化財「旧魁陽亭」を中心に、①関連資料と建物の広域観光資源化についての調査研究、②市内・札幌圏及び日本遺産認定地を対象としたモニターツアー（徒歩、オンライン）、③旧魁陽亭の歴史的価値及び活用に関する情報発信（シンポジウム、オンラインイベント）を